

令和3年度 「特色ある学校づくり」実践事例



佐世保市立宇久中学校

所在地 佐世保市宇久町平 2303 番地

校 長 萩山 栄二

生徒数 12名 学級数 2 (R3.5.1)

(実践テーマ) ～郷土を愛し、郷土に貢献する心を養う～

○ 実践テーマ設定の理由（目的）

本校生徒は、1島1中学校であり小中高一貫教育の12年間で地域住民の方々の温かいご支援を受け育っている。12年間の小中高一貫教育を経た後は多くの生徒が島外への進学・就職を選択する。

そこで、地域で生まれ愛されてきたことを実感することにより、自信を持ったそれぞれの歩みにつなげ、将来においてもふるさとを愛し、ふるさとの発展に貢献する人材の育成を目指し、上記テーマを設定した。

○ 重点項目および実践内容

上記の目的を達成するために、以下の5点を重点項目として取り組んだ。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| 1 学力向上 | 2 環境自然 | 3 郷土学習 |
| 4 キャリア教育 | 5 健康食育 | |

1 学力向上

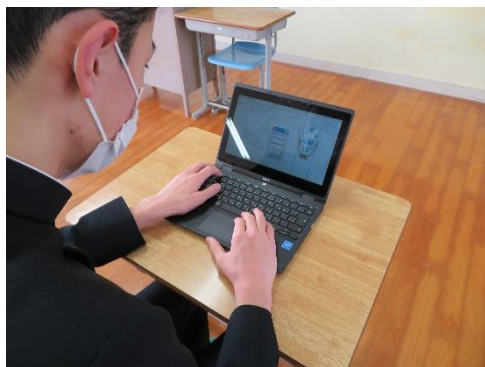
(1) 朝の時間の活用

①e-ライブラリによる学習時間

毎週金曜日をe-ライブラリに取り組む時間と設定し、それぞれの生徒に応じた学習課題に取り組ませた。実施に際しては全職員で指導にあたり、個別最適な学びとなった。また、学習課題に取り組ませると同時にタブレット端末の利用方法についても指導できることでタブレット端末利用の上達にもつながった。

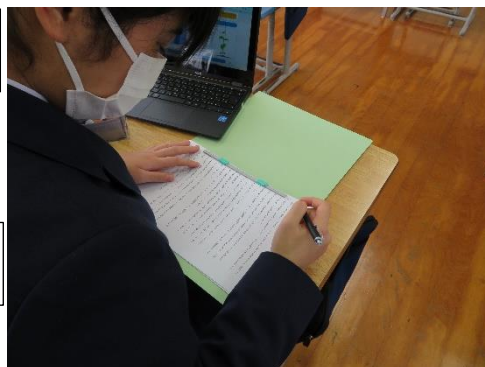
②読解力トレーニング

毎週木曜日を読解力育成の時間と設定し、新聞記事や各種データなどから必要な情報を読み取る力や自分の意見を書く力を育てる時間とした。読解力を「文章を正確に早く理解できる力」と定義し、読解の要素を「係り受け解析」「照応解決」など6つの要素に整理し、その要素に沿った学習課題を準備した。読解力と全国学力・学習状況調査の結果は高い相関関係にあり、読解力に特化した取組により学力向上につながる取組である。



e-ライブラリの学習

読解力トレーニング



(2) 家庭学習

宿題とは別に、毎日1ページ以上の家庭学習を行っている。学年職員で点検をし、課題に対する指導や支援を行っている。その結果、家庭学習の定着を図ることができた。今年度はページ数を2ページから1ページ以上とし、家庭学習の質の高さを求めるものとした。

(3) 小中高での授業研究

小中高全教員で、それぞれの校種の授業を公開し、授業研究を開催している。今年度は小学校で国語科、中学校で数学科、高校での英語科でそれぞれの研究授業を行った。12年間を見据えた学習指導の在り方について、指導案中に共通実践事項を設定することや授業研究会でのワークショップ形式での討議など、様々な方策を通して児童生徒の学力向上を図った。



(4) 黒島小中学校との交流学习（7月、2月）

同じしま部である黒島小中学校との交流学习をととして、地域による違いを理解し、ふるさとへの思いを深め、これまでの地域学習の成果や課題について振り返ることができた。また、リモートによる授業を重ねることで、ICT機器を活用した情報を発信するスキルを高めることができた。



2 環境自然

五島列島最北端の宇久島は、大変美しい環境に恵まれている一方、少子高齢化により過疎化が深刻化している。美しい地域を守るとともに、宇久島を活性化していくために、自分たちにできることは何かを考え活動している。

(1) 小中高合同海岸清掃（６月）

郷土の身近な自然の実態を知ることにより環境保全の心や宇久の自然を愛する心を育てるとともに、小中高が協力してふるさと宇久のために自分ができることを考え、実践する機会とすることを目的に実施した。



(2) 地域花植え活動（６月、１１月）

地域貢献活動として、道路沿いのプランターに、宇久地区老人会と協力して花植え活動を行った。奉仕の精神や思いやりを育むとともに、ふるさとへの思いも深めることができた。また、事前準備として宇久地区老人会と生徒会が打ち合わせを行うなど社会性を高めるうえでも効果的であった。



3 郷土学習

(1) 宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」（１０月）

①「なぎなた踊り」とは

本飯良地区八幡神社に伝わる奉納踊り。さまざまな踊りの様式が入り乱れて伝承されたようで、一部には歌舞伎勧進帳の弁慶・富樫を模しまた、一部には弁慶・牛若丸を模していると言われている。一度途絶えた踊りを発掘したものであるため、長い間に徐々に変容していき、現在に至っている。

踊りは、弁慶・富樫を模した問答の後、緩やかななぎなた踊りに移る。お謡いにあわせて、大太刀（男踊り）、小太刀（女踊り）で踊る。

※統合前の神浦中学校が掘り起こして、現在本校で伝承している。

②本校での取組

目的を下記のとおり設定した。

- ・郷土の伝統芸能を体験することにより地域理解と宇久島のよさを発見し伝統を継承する。
- ・「なぎなた踊り」の歴史的背景を学習し、学んだことを表現する。
- ・他学年とコミュニケーションを図りながら、協力して踊りを完成させる大切さを味わう。

<実際の取組>

- ・地域との連携

地域の方を講師としてお招きし、ご指導いただくことで、できるだけ昔の形で残せるように取



り組んでいる。

- ・リーダーの育成

大太刀、小太刀それぞれの3年生がパートリーダーとなり、リーダーの指示のもと自分たちで本時の目標を決め取り組んでいる。



(2) 宇久島調べ (10月)

宇久島の歴史や文化について、地域の方を講師としてお招きし、自分たちが住む宇久島には、どんな歴史があるのかを、実際にフィールドワークをすることで再発見し、宇久島の魅力を学習している。



4 キャリア教育

キャリア教育の一環としてとして、人権啓発活動がされている講師の方を招聘し、「多様性が彩る未来」というテーマで講演を実施した。人権の大切さや今後の生き方について深く考えることができる機会となった。



5 健康食育

全学年で地域食材を使った調理実習を行った。豊かな海洋資源、また宇久島の特産品について学ぶ機会となった。小中高一貫教育の共通の取組である「自分で作るお弁当の日」では、自宅で弁当をつくり、その写真を投稿するかたちをとった。栄養面で偏りが出ることがないように工夫するなど健康管理について考える機会となった。栄養教諭を中心とした健康部会の指導のもと食に関する意識も高まった。



【成果と課題】

昨年度に続き今年度も、コロナ禍のため当初の予定を大幅に変更する取組となった。特にキャリア教育の一環として招聘予定であったプロ野球選手の講演を中止せざるを得なかったことは大変残念であった。

しかし、宇久地区無形文化財「なぎなた踊り」の取組や小中高海岸清掃、地域における花植え活動は、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施することができた。当たり前のことを当たり前にできない状況のなか、創造力豊かに対応していくことで難局を乗り越える経験を積むことができた。

社会の在り方が劇的に変わる予測不可能な時代を生き抜く生徒は、この1年間の5つの重点項目における各プログラムを経験することで、郷土を愛し、郷土に貢献する心を養い、持続可能な社会の創り手として成長することができた。